

日本盆栽作家協会会報

第24号 平成28年10月1日



作品 盆 栽 は 作 家な 芸 術 作品

ます。 せの て自分の 十年といわないまでも、最低でも五年は手元に持っ 「作品」とし 真の審美眼も開けません。 年手元に持つと、 の余裕が無くては、楽しさがわ ての目 て愛情をかけて欲し 的意識を持ち、 真に自分の「作 個 い いてこな 性 的 品」となり な 作意 い بح

盆栽界の発展のため に 真 の 盆 栽 の

そこで初めて芸術たりうるも

のが誕

生する

「作家」を育てていきたいと考えて 日本盆栽作家協会は、 いま



た。盆栽はその樹の将 来を創造することによ

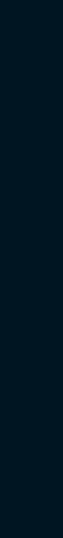
つくることができる。

んでもらいたい一点で

ある。

主会場 /日本盆栽作家協会 / 台いたま市大宮盆栽美術館 / さいたま市大宮盆栽美術館 / 一本盆栽作家協会 金金 10 10 月 月 28 21 日 日 水水

前 期





第 24 回 作家展(作品の説明をする小林幹事)



花梨 鉢:中国正方 山崎 純一(富山県)

この花梨は、1997年に入手し、以来 18年間培養に取り組んできたものである。ようやく作品として自信を持てるレベルまで到達できたと思っている。今後は枝のホグレや鉢写り等を追求し、樹格向上に努めていきたいと思っている。



五葉松 鉢:南蛮太鼓胴 矢内 信幸(大阪府)

本作は、五葉松ではないと表現することができない自然美のある樹形である。「斜幹(しゃかん)」と呼ばれる幹模様の、厳しいまでの幹味が見どころである。

山もみじ

鉢:和緑釉楕円

菊岡 成泰(奈良県)

本作は、40 数年前より 培養しているものであ る。当時は数本の樹を寄 せて植えた「寄せ植え」 という樹形であったが、 現在はご覧のとおり3本 の幹が一株となってお り、その盤状に広がりる しんでいる。





アメリカ蔦・黒松 鉢:和楕円水盤 米沢 増雄(東京都)

紫黒色の華奢な実を付けたアメリカ蔦に、軽妙洒脱(けいみょうしゃだつ)な卓と、黒松の石付き盆栽を合わせた。 静寂の美を感じてほしい一席である。



五葉松(銘:鳳林) 鉢:常滑白泥外縁下紐長方 須藤 雨伯(栃木県)

この樹は私の先代の残された盆栽で、私はひたすら 50 年培養してきた。この機会に銘を付けて、なお一層「樹を養うことをもって人を養う法となる」を我が教訓とし、精進したいと思う。銘「鳳林」は金閣寺住職(1592 ~ 1668)の名に由来する。鳳林和尚は多芸多趣味の人で、詩文、茶道、盆栽、盆石に強い好奇心と風流をもった人物である。

五葉松 鉢: 和丸 阿部 健一(福島県)

樹齢実生48年、5年 ものの苗木に、「曲づ け」(幹や枝を針金 掛けで曲げて風情を 出すこと)をして畑 で30年間培養した。 その間に幹に「曲づ け」をくりかえし行 い、18年前に鉢上げ を行った。最初の整形 を行う時に足元の立 ち上がりを活かすた めに、思い切って樹高 の3分の2以下の枝 を全て切り落とした。 その上で、高い場所 の枝を落ち枝の裏枝 として使い、左流れ を強調するため、落 ち枝の差し枝を使い、 自然らしさの表現を 心掛けてみた。



筆者所蔵の峯雲作の銅盤にての水石作品。





鋳造、仕上げの工程を、

と仕上げ師は別々の工程で、別の職

その斑紋の見事さは息を飲むばかり げにしても、斑朱銅仕上げにしても、

一般には鋳造製品は鋳造家



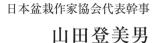


左:うら面と落款部分を拡大した写真。 上:おもて面。

思われる。それだけに蠟型鋳造によ 道の真、行、草を修得する立華のたわち薄端を製作したが、これは、華 る薄手の水盤製作は得意であったと その地肌の美しさである。青銅仕上 のあるものは、あり得ないのである。 る一点作品の峯雲水盤は一つも粗漏 てみれば浅物または薄物と彼が称す のための花器水盤に至ったのであ めの形態を主眼とし、それから盛花 よれば、二代峯雲は頭初花器類すな 発行の「全日本美術盆栽写真集」に たく同等の価値を持つ製作品にプ 峯雲の作品のもう一つの特色は、 これだけの技量を持つ峯雲にし

◇名鉢!

原田峯雲の銅盤研究





るのである。初代峯雲は釜師家より 器の製作も手がけたことがうかがえ 恐らく明治の変動期にあたって生活 係で峯雲についてはよく聞いており 学校の近くに開園しておりました関 い方をさらに伝えたものといわれる。 か。その子二代峯雲が花器の専門店 風炉を製作していた職人であった。 ましたし、作品も数点残っております。 ば、その父初代峯雲も蠟型による花 にも厳しいものがあったのであろう 名越弥五郎昌春のもとで釜をかける 次郎まで日暮里のすぐ隣り旧根岸小 かんべや」で働いたところを見れ 初代原田峯雲は江戸名越家の釜師 (金属の配合)を伝授され、

三一年)東京・荒川区日暮里に生ま

今に残る。

たといわれる。この技量に眼をつけ 香撰」の落款として、 の水盤製作の原緒を開いたものであ 盤鑑賞を考案した人物で、原田峯雲 または苔植え一辺倒であるのに対 治末年より盆栽専業となった鈴木豊 たのが鈴木倉吉豊香園主である。 下職として花器水盤の製作にあたっ る。その作品は「豊香鑑」または「豊 し、現在の水石愛好の主流をなす水 香園は、明治初期の水石愛玩が台石 **峯雲鋳として**

銅盤製作をした背景に忘れてならな 受けての発案によるものであったで はあくまでも数奇者の手足であり、 会的にきわめて高い位置にあったと 水盤製作もそうした愛好家の示唆を しかも今よりずっと美術全般にわた いうことである。豊香園などの業者 いのは、当時の盆栽、水石鑑賞が社 原田峯雲が豊香園の依頼を受けて 水盤の製作にあたる峯雲に 愛好家の意を汲んだ

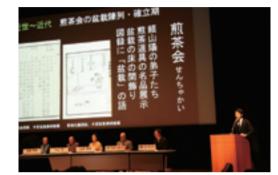


五葉松 銘「うず潮」

通して描き出しました。 大原美術館館長 高階秀爾、 パネルディスカッションを るべき将来像を基調講演や イベントとして開催された 司会役に埼玉大学准教授 の美意識や盆栽文化のあ 世界盆栽大会」のプレ

さいたま市で開催される「第 4月に日本の

紀による狂言『盆山』が演て、九世野村万蔵、河野佑史解説、また特別公演とし 口学芸員から盆栽文化の歴ロ学芸員から盆栽美術館 田 ドアルド・ロッシ、 西洋美術との比較等、 迎え、それぞれの見識から リエイター 桐島ローランドを エウガネア盆栽協会副会長 エ した議論が展開されました。 大宮盆栽美術館 写真家ク



盆栽の文化・歴史解説



狂言『盆山』の公演

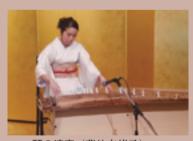
国際盆栽シンポジウム 2016



パネリストの皆さんの活発な議論が展開されました。



歓迎パーティ会場全景



琴の演奏 (菊地奈緒子)



山田会長とイタリア支部の役員の皆様





米日されましたので、 文部の皆様が団体で 牧原ひでき

開催されました。 狩野嘉宏の横笛演奏、 よる歓迎パーティが 市長からのご挨拶、

さいたまパレスホテル大宮 2 月 10 日

11



(日本盆栽作家協会常任幹事 小林 國雄





筆者によるデモンストレーション。

(撮影者:鈴木浩之)

「盆栽をと 人を対象

してくれたらうれし してくれたらうれし してくれたらうれし してくれたらうれし 人が創り出すあらゆ 間性なくして生ま 史が凝縮されている。 育ってきた環境と歴

母校都立農産高校で講演

於 都立農産高校体育館

上:展示会場風景。 下:筆者による盆栽講義。

作を始めた。 スするブラッ て行われた、雑誌「中国盆景」 蘇放がプロデュー

の数が実力を証明する仕組自由に移動可能。人だかり者がどの人の改作を見るか競技大会風のデモは観覧 ンである。 16寿光杯」

「2016中国寿光杯」

掲げ若者に負けぬよう邁進 得ることを全世界へ提示した。 るのではないだろうか。 緊急に篩を振るう必要があ できる土壌ができるよう、 国籍を問わず、 寿光杯は実力があれば年齢 中国の英雄に習い 日本の業界も若者が参加 の若者が集まるだろう。 国の盆栽業界には以降多

ズ

- 各国から

右記3点を目標に定めた

盆栽展示会 Mid Atlantic Bonsai Society

君とメキシコ人 **界子のウーゴ、** いに大ベテランで 助手に弟子の神

理性を備えてい ルはさておき、 盆栽技術のレ

さと風通りの良 役割分担の明確 囚われ過ぎない

13

作家展主旨

ボ会日るねら図しめンにの作か体りくざ 作か体りく、 作業ら得 で美し永自条 あの 心そ修とは盆 待にトイ日す包積の調変作い貢とブの。合み中和に家 た献しな社今す重かを厳を



口 家



The 8th WORLD BONSAI CONVENTION, SAITAMA CITY

日時: 2017年4月27日 (木曜日) ~4月30日 (日曜日)

メイン会場:さいたまスーパーアリーナ、大宮ソニックシティ、パレスホテル大宮 サブ会場:武蔵一宮氷川神社、さいたま市大宮盆栽美術館、大宮盆栽村

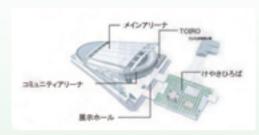
【主なプログラム】

1:デモンストレーション

日本を代表する13名と世界各地から招聘した8名の盆栽作家によるデモンストレーションを、すべて 見学することができます。 デモンストレーションでは、盆栽の素材となる原木の枝や幹を剪定したり、 針金によって姿を整えたりすることで、盆栽の形を作り出す過程をお見せします。

- 2: 歓迎レセプション、友好の夕べ(夕食)への参加
- 3:日本文化体験教室などへの参加
- 4:下記のさいたまスーパーアリーナで記念開催される「日本の盆栽水石至宝展 | へのフリーパス
- 5: サブ会場を結ぶシャトルバスの無料利用
- ※ 参加登録料:通常料金 40,000 円 (2016年10月31日まで早期割引料金 35,000円)

申 込 先 : 公式ホームページ world-bonsai-saitama.ip/



メイン会場のさいたまスーパーアリーナ



内のコミュニティアリーナ



さいたまスーパーアリーナ サブ会場の一つの氷川神社の舞殿 での盆栽展示予定イメージ。



第8回 世界盆栽大会 in さいたま The 8th World Bonsai Convention, SAITAMACITY

日本の盆栽・水石の枠を一堂に集めた、世界最高峰の展示会

第8回世界盆栽大会 in さいたまでは、多くの皆様に日本が誇る盆栽・水石の最高峰の作品をご覧 いただくために、さいたまスーパーアリーナで「日本の盆栽水石至宝展」を開催します。

300席を超える盆栽、皐月、小品盆栽、水石の名品を展示するほか、主催者展示として、「皇居の 盆栽展示(予定)」「盆栽の歴史と文化」「映像で見る『世界の BONSAI 紀行』」、盆栽や関連グッズ の売店エリアも併設します。また会場内ステージでは、盆栽作家によるデモンストレーションをは じめ、様々なステージイベントを実施する予定です。是非お越しください。

日時:4月28日(金)~30日(日) 会場:さいたまスーパーアリーナ

入場料(税込) 1.000円(前売り800円)※保護者同伴に限り小学生以下無料 2016年10月より各プレイガイド、コンビニエンスストアにて前売券販売予定!



杜松(としょう) 鉢:紫泥楕円 秋山 実(山梨県)

鋭く尖った葉を特徴とする杜松は、「ねずみさし」または「ねず」と呼ばれています。本作は杜松では珍しい株立ち樹形となっています。厳しい姿の樹形ではなく、「株立ち」で景色が広がる樹形を心がけました。



真柏

鉢:和丸

琳葉 千絵(東京都)

皐月(さつき)(晃山) 鉢:朱泥切立下紐雲足長方 小林 國雄(東京都)

根張りと立ち上がりの品の良さに魅せられ入手。左の一の枝を取り、空間を現出することで「形小相大」を表してみました。 盆栽は線の動きと空間、そして時間経過の美が大切な要素であると思います。





杜松 (としょう) 鉢:中国輪花式 養田 昂之 (東京都)

幹模様と杜松特有の「シャリ」の味、そして「水すい」の芸の素晴らしさには、今にも動き出しそうな迫力があります。 今後も培養に努め、新たな魅力を作出していきたいと思います。



五葉松(半懸崖) 鉢:和八角 今井 千春(神奈川県)

中品ながら立ち上がりからうねりを伴い力強く下垂する幹模様と、葉性の良さに魅力を感じ、4年前に入手しました。以後、枝作りに専念し、現在に至っています。まだ未完成の樹ですが、ようやく飾れる姿になってきたので、今回出品させていただきました。

五葉松 (瑞祥) 鉢:誠山外縁長方

吹田 勇雄(宮城県)



表 紙:五葉松(銘 福寿丸) 第 25 回 作家展 出品予定 (会期:2016 年 10 月 14 日〜 26 日) 発 行:日本盆栽作家協会/責任者 山田登美男 埼玉県さいたま市北区盆栽町 268 清香園 TEL 048-663-3991 事務局:江口信二 埼玉県白岡市新白岡 7 - 7 - 9 TEL 0480-92-3897